

令和2年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 八上小学校
校長 小田 環

1 学校教育目標等

豊かな心を育み 自ら学び たくましく生きる 児童の育成

2 今年度の重点目標

- (1) 学習の学び方を習得し、自己学習する態度を育てる。
- (2) 一人一人の人権が尊重される温かい人間関係を育成し、豊かな心を育てる。
- (3) 健やかな心と体を育てる。
- (4) 教育環境の整備と効果的な活用を行う。
- (5) 保護者、地域との信頼関係を築き、連携しながら教育を推進する。

3 学校自己評価結果

(達成状況・・・A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分 野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学習指導	話し合う活動を計画的に取り入れ、子どもたちが考えを深めたり広げたりする学習をしている。	A	児童のふり返りを見ると、話し合う活動はしているが、深めたり広げたりするまでは至っていないと感じている児童が多い。活動に対しての評価をしていくことで、考えを「深める」「広げる」という学び方を意識づけていく。
	授業において、子どもたちが「めあて」を意識して取り組めるようにしている。	A	発達段階に応じて、予習に取り組んだ。予習によって、学習への見通しをもって授業に参加することができていた。また、疑問点を見つけたり、自分の考えを書き出したりする児童も見られるようになった。子どもたち自身が自分の成長に気づき、学びを確かめる場として、「ふり返り」「まとめ」をおこなう時間を確保していく。
	基礎・基本を定着させるための指導を行っている。	B	家庭学習として自分で学習することができるため、これまで新出漢字の学習に費やしていた。授業時間は、復習やテストといった基礎・基本の確実な定着に向けた時間に充てることができた。算数については、年度当初に前学年の計算まとめプリントを実施し、個々の課題や定着度を把握して授業づくりに生かした。算数の授業の初めに、必要に応じて、基礎的な四則計算を早く正確にできるよう基礎学習の時間を設定する。国語については、朝の学習の時間も活用しながら、必要に応じてスキルの学習も取り入れる。
生徒指導	「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応に努めている。	B	学級担任、関係職員が複数の目で児童を見とり、いじめの早期発見、早期対応に努めた。事案がおこった際には、職員一人に対応せず、チームとして対応した。チーム学校として、児童理解に努め、カウンセリングマインドに基づいた指導にあたり、未然防止に取り組む。様々な機会を捉え、保護者へ日々の取組（未然防止、早期発見、早期対応）が伝わるように、通信や便り等で発信していく。大切なことについては、繰り返し伝え学校の方針を伝えていく。
	児童自身が考え、進んで取り組む係活動や高城集会、縦割り班活動、委員会活動などを行っている。	A	コロナ禍で活動に制限があるなか、工夫して児童会活動や委員会活動などをおこなうことができた。そのなかで、児童が自ら考え、問題意識を持ち、学校をよくしようという姿が見られた。

安全管理	安全・安心な学校生活ができるように、様々な学習・訓練を通して、安全・防災教育にとりくんでいる。	B	コロナ禍ではあったが、三密に気をつけながら種々の訓練を実施することができた。また引き渡し訓練を実施できなかったが、非常時を想定し、職員だけで模擬訓練を行うことができた。各学年の防災教育の取組を一覧表に表し、次年度も系統だてて学習できる体制を整えた。
------	---	---	--

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自ら、学ぶスタイルが定着するまでには時間がかかったが、今では、子供から「自分に自信が持てるようになった。」と聞き成長を感じている。今までのような知識を詰め込む授業ではなく、自主的主体的に学ぶ学習方法を継続して行ってほしい。ただ、学習が苦手な子どももいる。子どもたちの負担にならないよう取り組んでほしい。今後とも、子どもたちの主体的な学びを引き出す指導法の研究をお願いしたい。 この一年コロナ禍の中、学校教育においても大変だったと思う。目指す子ども像として、自主自律は今の社会情勢にマッチしていた。職員全体で取り組めたことはよかった。今後は、個に応じた支援の仕方を考えて行ってほしい。
--

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本をしっかりと学ぶことが大切なことだと思う。 今おこなわれている「ふるさと教育」がマンネリ化しないように、意義と目的をたえず意識して取り組んでほしい。今後も全学年でできるだけ地域にでかけ、地域の人と触れ合ってもらいたい。 ゲストティーチャーをもっと活用してはどうか。児童にとって体験活動は体を通して得られる貴重な学習だと思う。 先生が元気で、いきいきと子どもたちに指導してもらいたい。その中で、子どもたちが学校の先生になりたいと思ってくれる子も出てくるかもしれない。併せて、管理職の先生方も教職員のあこがれの管理職でいてほしい。

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 教科内容や指導方法等、多岐にわたり、先生方も大変ですが、人権教育は教育の根幹として位置づいていることを忘れないでほしい。 すべての教職員が個々の課題やつまづきに対していねいに対応できるとは思いません。そのためにも、学び合い活動を行うこと（児童どうしが学び合い、相談し合える関係）は、大事だと思う。クラスの人数が少ない利点を生かして、1人ひとりの特性をつかみ、伸ばして行ってほしい。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見のためにも、話しやすい人間関係、雰囲気づくりをして行ってほしい。（先生と子ども、子どもどうし、担任の先生だけでなく学校のだれに言ってもいいなど） 先生にあいさつをしても、地域にはしていないのかもしれない。強制にならないように、自然な形でできたらと思う。大きな声を出せない子もいるので。あいさつの意義も伝えてほしい。
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍では、学校・保護者・地域住民の役割分担をもっと明確化することが重要だと思う。 子どもたちの生命を守ることが、学校の最重要課題であることを忘れず、学校運営協議会と連携し、常に環境整備に取り組んでいけるようにしていきたい。